

世界野球とウクライナ


「ロシアのプーチン大統領は、3月25日、国営テレビで、自国の戦術核兵器を隣国ベラルーシに配備する方針を表明しました。ロシアは昨年2月24日のウクライナ侵攻開始後、核兵器使用の脅威を繰り返して、同国の原爆の占拠や砲撃をしてきました。今回の表明でロシアの核脅迫は、新たな危険な段階を迎えました。」

（赤旗日曜版4月2日）

ロシアの核配備と聞いてレナータ・イズマイロワさんを思い出した。彼女は2000年に開催された原水爆禁止世界大会に導入発言の1人としてカザフスタンから招聘された高校生だった。広島市民球場に設けられた特設ステージを外野席から眺めると、1人の女性が見え、彼女を抱えて歩くのが目に置くと、その影がスッと姿勢を正してマイクを握った。レナータさんだった。高校生とはいえない、どう見ても身長は30センチ程度だ。本人だと思っていた女性には彼女

の通訳だった。「私は1982年に生まれました。核実験場が私の運命に消し去り難い痕跡を残したのには当然のことでした（中略）私はいつも自分で学校に通いたいと思っていました。同じ年代の人たちを見るとき、みんなと同じように歩いたり、図書館へ通ったり、毎日の生活を楽しまたいと強く感じるのです。実験場は私からこの全てを奪ったのです。（中略）私は核兵器を製造して貯蔵する人たちに聞きたいです。私のような障害を持つ子供が欲しいですか？と。」

通訳の声がマイク越しに震えていた。スピーチが終わると二人は涙を拭いながら抱き合い、万雷の拍手が彼女たちを温かく包んだ。ロシアが各配備を決めた3月末、必勝しゃもじを抱えてウクライナを訪問したのは我が国の首相だった。この訪問はロシアに対する挑発行為だという声がSNSに上がったが、それも世界野球の興奮にかき消されてしまった。しかし、これが世界唯一の被爆国と言われ、日本の姿なのだと見たいへん勇気のあることだ。

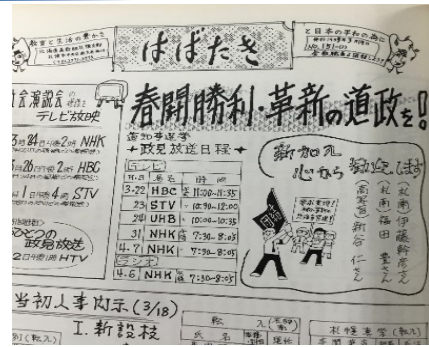


祝 600号 Anniversary

発行記念座談会

皆様、こんにちは。 「はばたき」は、札幌・石狩管内の高等学校及び特別支援学校の教職員の皆様に向けて、教育情勢や社会情勢および労働条件にまつわる諸課題などを発信するツールとして、現在まで発行し続けてきました。この度、発行部数が600号を数えることとなりました。そこで600号を記念して座談会を行いたいと思います。まずは、「はばたき」の歴史についてお話しただけ

A はい。わかりました。ですが、その前に、各職場で「はばたき」を配布して下さっている組合員の皆さん、そして、それを読んだ下さっている読者の皆さんに是非とも挨拶させていただきます。「いつもありがとうございます」「はばたき」の歴史についてですが、道高教組札幌支部の新聞として1970年代から発行が始まりました。札幌支部には、草創期以来ずっと組合専従を配置してきましたが、記事の執筆や発行は歴代の専従書記長が主に担ってきました。



1983.3.19発行

手作りの温もり溢れる「はばたき」



1981.5.7発行

B では、ここからは私が出始めたのが、80年代の初めでした。そして、そのワープロ自体も90年代に入ってパソコンにとってかわられるんですけれども、そのワープロが普及する以前は、長らく手書き手刷りのガリ版印刷の時代がありました。その後、自動製版機能付きの輪転機の出現で楽に大量印刷することが可能となりましたが、「はばたき」の創刊はその頃だと思えます。ですので、初期の「はばたき」は全て手書きの原稿でした。

D 私は、洋画のDVDを見ていて、教室のシーンが出てくると一時停止して、教室内の机の数を数えるんです。大概1教室には10人から多くて25人なんです。私の高校時代は1クラス47人でした。少子化が進んでも、そのまま教職員数も同時に減らしてきた結果、日本のこの劣悪な教育条件はいつまでたっても変わりません。

A それ現場の多忙化の根本原因でもありますね。GDPにおける教育予算の割合が日本はOECD加盟諸国の中で、ワースト2であることは有名です。



B 私は「はばたき」を現場で配布する醍醐味について話します。例えば、定年延長の制度設計や免許更新制廃止のニュースなど、新聞報道よりも早く詳しく記事にできることがあるんです。これは人事委員会に登録している教職員組合としての道高教組ならではの情報発信ですが、管理職への通達が出る前などは、管理職も「はばたき」から情報を得るしかないといった場面が起きます。

D そうなんです。毎年、道高教組が取り組んでいる「ゆきとどいた教育をすすめる署名」は累計4億筆を超えています。もっと大きな運動にして、国を動かすために通して皆さんに「はばたき」を訴えをしたいものです。

B そのとおりですね。皆さん何かありませんか？



道高教組札幌支部
札幌市中央区大通西12丁目
高等学校教職員センター3階
TEL 011-271-5875
FAX 011-271-5895
https://koukyosapporo.jimdo.com

2023年度 高教組札幌支部体制

支部長	琴工 桑原 岳夫
副支部長	江別 野上 徹哉
書記長	琴工 丸山 稔
書記次長	伏見支援 野村 健治
執行委員	札幌 池田 理
女性部長	新篠津高養 小林 克知
実習教員部長	北広西 志波 晴世
現業教員部長	石狩南 簡測 隆一
定通部長	札幌東陵 角谷 哲司
障害児学校部長	恵庭南 伊藤 政伸
青年部長	東豊 武藤 素子
養護教員部長	白石 大澤 拓実
会計監査委員	共栄 中道 真由美
中央委員	月寒 鈴木 宏志
書記	琴工 桑原 岳夫
	北村 亮一

障害児教育 はるがく 春の学習交流会

講演 川内亜弥子さん (神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授)

2023年6月4日(日) 9:30~12:30

北海道高等学校教職員センター4階大講義室
(札幌市中央区大通西12丁目 地下鉄東西線・西11丁目駅・徒歩5分)

オンライン (ZOOMミーティング) オンライン参加も可

参加対象：教職経験5年以内の教職員を中心に、「授業づくりで困っている」「悩みを聞いてほしい」「学校を超えたつながりを作りたい」年齢・経験・職種を問わず、学びたい方全ての教職員が対象です。

参加費 (会場参加・オンライン参加ともに) 1000円

(教職経験5年以内・期限付き採用者の方は無料)

申込・問い合わせ先 011-231-0816 e-mail kokyoso@dokokyoso.jp

